



Palau Organic Growers Association (POGA)

パラオ有機農業者協会

会長
マーク・ベリン
事務局長
キャロライン・D.ギライディス

主な活動内容

- 太平洋島嶼国の有機農業支援組織 (POETCom) との連携
- 有機農法の教育
- パラオの有機農作物のデータの収集
- 学校給食に有機産物を取り入れる働きかけ

設立背景

農薬による栽培に危機をいただき、パラオ商工会議所のメンバーによって2011年に設立。

活動目的

最善の有機農法を見つけ、農家のみならず家庭菜園などを行うすべての生産者と農法における情報を共有すること。また、生産者と政府をつなぎ、生産高の向上や生産物の管理を行う。



メンバーからの声 キャロライン・D.ギライディスさん



パラオの伝統的な農法は有機栽培でした。しかし、時代の流れとともに農薬が普及し、その農法は廃れてしまいました。そのため、私達 POGA は 17 の太平洋島嶼国が加盟している POETCom を母体に、農薬に頼った農法からの脱却し、伝統的な知恵と現代の研究成果による最善な有機農法の確立を目指し活動しています。

2019 年に有機農法の普及を図り、土壌改善、有機肥料作り、および農作物の生産高向上について女性生産者へ教育するプロジェクトが POETCom 主催のもと行われ、これにより、太平洋有機農法基準に沿った農家が 15 名認定されました。

新型コロナウイルスの世界的なパンデミックによる国際流通の減少は、国内の食料生産について考える契機となりました。パラオの食料自給率は 20% と低く多くを輸入に頼っています。当時大統領であったトミー・レメンゲサウ氏は主産業である観光業だけに頼らず、農業の発展を促しました。現在、私達はパラオの農業局と連携し、最善の有機農法と農薬の排除に関する国家政策をおこなっています。私達は海外からの専門的な技術者を通じてパラオ全土の農家のデータベースを作成したいと考えています。これにより、国内の農業の全容を把握し、食料安全保障や多様な作物生産が可能になるのです。パラオの大地の多くは、作物の生育には適さないと言われる火山性土壌に覆われています。しかし、政府と協力し、有機肥料による土壌改善に取り組みれば、パラオで生産できない物はないと信じています。現在、いくつかの州で家庭ごみからバイオガスと液体肥料を抽出するシステムの導入を検討しており、この設備は今後パラオでの有機農法に有用であると考えます。

私達は農作物の生産だけでなく、販売することも目標に掲げています。現在、週一回開催される朝市で有機農法による農作物を販売していますが、今後は、生産時期や生産高を把握し、私達が各農園に生産すべき農作物を助言することで生産高の向上と安定供給を約束し、毎日市場を開催できるようにしたいと考えています。教育大臣及び農業大臣と共に、私達の管理下の有機産物を学校給食に使えるよう取り組んでいます。安定供給が確保できていないのが現状です。農業従事者の高齢化と後継者不足は深刻な問題です。現在は農家同士の結びつきが乏しく、また、いくつかの農家は特定の農作物の生産に固執し多様化を恐れています。しかし、パラオ特有の気候や環境に合わせた農法を共有し、生産高の向上や農作物の多様化を図ることが重要です。そのためには、官民一体となる必要があります。

Contact Information

 (680)-488-3400

 P.O.Box 1742 Koror, Palau 96940

 www.facebook.com/Palau-Organic-Growers-Association-POGA-100762269005862